佛説御傘 二

へ 5
6627
2

八5
6629
2

施福法傘

序

學山堂
八雲軒

呼子鳥　古今の名事なれ
ども世俗の文をたゝる人
多代連歌俳諧の事なりと
ゆゑ郷俗よい俗文をたゝる
正徳をたゝる歌をもまれ
ゝたゝる歌をもしとゝのゝ
為ゝ事ゝの細をもしり連歌
俳諧ゝ事ゝ不得ゝ
宗長記ゝ三十九年ゝ
死去ゝ事ゝ古今未得の人
も獨吟ゝ事ゝ

〈2002-16(21)〉

みちふこゝろとゝいふ句わかそのと和歌の乃紀ぶ毛よりこゝろ
きこゝろおせわこゝろ文より掛乃ゆ
あらこゝろ所し業の言ハ言葉
と人ゝ心を無い通とせらむ
字道理あわ呼ふる連ゝ句
よ一句一句ふれ言の事
も大切ふれ二句もを不
組世上の人ゝ事よりの付
ゝ毎句ふれ脈ゝも言
句ゝ言句

代

君ゝ代を神代を脈絡よ
いひかにふ句わゝあいの代
ふゝ代ゝ句ゝ毎ゝ
ゝ代ゝいの大神七代地神五代
然ゝ代ゝ代ゝ代ゝの流ゝ乃ふ

君ゝ代ゝ代ゝ流ゝ行ゝ
世ゝ代ゝ世ゝ世ゝ乃世ゝ代ゝの字
乃ゝ代ゝ代ゝの連歌ゝ
大句去ふれ脈絡ゝ句
去句ゝ代ゝの代ゝ代ゝ世
段乃世ゝ代ゝ代ゝ
中世ゝ絡ゝ流ゝ去絡流
乃ゝ代ゝ代神代ゝ代ゝ代
ふゝ代ゝ所ゝ続ゝ
ゝ代ゝ代ゝ代ゝ乃
ゝ代ゝも世ゝ代ゝ文ゝ不
連神代流代ゝ代ゝ殺ゝ
ゝ毎句ゝ代ゝ代ゝ
連ゝ代ゝ代ゝ代ゝ
ゝ代ゝ代ゝ代ゝ代ゝ
ゝ代ゝ代ゝ代ゝ代ゝ
ゝ代ゝ代ゝ代ゝ代ゝ

るくハ千歳万歳をまへ今
おす古頌なりにハ千世万世
と世上乃せの字をかきり
あるの文字なるにもその孫
乃代々をせまる次百世万世と
いはゆる事も俳諧なりと
おもしくハゑいの字を乃かく
浮よなれも其こゝろひかゆる
あよう俳つゐハ代乃よくにね
定なりし古今の序のはしめ
十つさとハへらも其名序よ
ハ十代とりきわ又なにゆのと
あらりとなへもし秦始皇二代
めそハ二世のたゝみとりさ晋
王質七代めの孫よあなる
七世乃孫ともなりもあれなし
くめやとせてくあめりハまち
たうし先達もいさりも何
かしきは俳しんくいりくも
あらくおりかく称号をいはまゝ
乃次ならわしく序き俳
諧ハ岩来るまでにあそびけれ
もは家人ハ不審さそくる
し俳へしなり発句より七世の孫
あとし志うしん句をいはせ乃
宗因の事へる次第しきこう
とかくくもいよせひあらへハ
めよ何もはや定座し三よ七よ
本よ百よ又よ万よ第るなん
数寄の乃付合よ次々しく文書
なりハせのよなと出たる例なし
あれた俳諧の其道なりしへ

古代もかくのごとくなるべしとのたまへり
故に世乃字をしるしたるさまん
ものうりわめうたる
代乃字を宰人なるべしとのより
わるる世の字をしるしたる時
さ時にあたるべし前代
とうきしるしたるのよし仏乃よ
法勒のよ神代よりうるく
仏乃世とかーとに世のよれ成ん
新のよ神道のよるれよ
よのよみといふのに成ん
おさ後まる世もし成治とも
就ろよもら紙ろ子えん
治世のよにたもわ人ものれよ
いろへ乃よ世のよもむ
ものうの帝なとい

世

あ一ものいく
乃ものうを
乃字をしるしたる
しく去極へるし
あ一ものいく
乃世しるあ世とも云
なるわるへしよいと云るの世
や世よろや紫相雑ものれ
し世世こよるるくも世るり
天義の世とかいお乃世後の
世仏乃世せんせこを仏を世る
をつふ迷信の世いきき世よを
るむく世ものもよ川ものれ
るし紙乃世いるるるるるる
なるる彩武りの字世乃世一迷
信乃世二天義乃世一迷乃世一
を治彩ものるるくるるるる

乃世は一いきまの形みなくも
うつりよもかしつと句れ相し
謝狂りいいきまの世るわた
数ふまんく加減しくいと
ちし当面をう句りしひ間意の
よいよの乃世りしセ句去しらし
辛世のし紙数みよ濃くこと
ふるうしし屋ちし者くく辛世
のよ一句よもうへりす述懐
乃世数よ濃くくも当ふん
屋ちう言ゆく世といふ句屋
弱をへし大義の世も意乃
よも当同ふしうんと数メと
ゆりしるれて六句乃ふいうへ
うし次代乃うに連言よよ句
面ふれし謝狂りいと句へ

もも世中は世界
二句ちとつり世中のふりに
ちうちう言ゆちよ分句を
う怪へさし

よもとて人

栄つと出たち
て特世よ富三
同面一組二同形歌と形
式よふ言謝よいくあ面とす
面し栄つと数メよう海し
世を特りよセ句去へしを
附へ特ちと言ふ人とふ言よ
いよもきし面句りし歌よ
もて人ちふ附ち世の言に
面をさしの特ち言人の言
よ三句ちも面ふちよ叶

ぬ或あるうち新武乃乃とち
ものなら数つと数うち
ちつくも迷惰し人倫し
数よしむ時迷惰の世乃字
乃数ありしよとてひとく
よむ時て迷惰乃世の乃ぬ
ものしあらいとよ汁とものを
富し世をとて人し世とて
人も同し事ものに数つと
ものよ文字のあれとて迷惰
乃とりの世よりもを種か
ものをしぬかれなれ有りの
ものしあられしなれ有りの
世乃をて種とあらん
世乃をて種とあらん
連よも面汁を種ハうて
ものしあられて乃あきうて
ものしあられて乃あきうて

よりひとつ三乃字と
二十年字とと文字
乃字をく移ともこうら
しきちと濃ともよ
ものハ二句ちと連よりて
よりひふ 形二句さうし
しうく 但句紙ようて
紙さむ 形ちし紙さむなうを
なを形よをうん

衰のさびなる浮名とも

蓮 ゆくもくさささもとも
いふ時同事やもくささも
たすし物なりつかしてる蓮
生にて兼ねり月時の句
物なりてて植物なるなり今う
すゆしもくささせもう露
なとんへ植物に蓮生へあまた
しるへなよりへて植物なりう
名添よ二句まてならぬ物は
蓮生なるの生乃字物を
嫌ふく一座二句の物とせり
浅芽生葎生蓮生は
三種まて浮あまりなきの
義なくあかもなるへき詞
なされへし三句まて八雲のく
蓬生芝生芽生玉生
と嫌に蓮生なと生乃字
と嫌く浮くて更に耳よりを
なぬぬかたる然一座二句に
いたる所なる曲なき歌謡
まへ物なりへ蓮生浅芽生
葎生乃内お露り二まて
なかの蓬生蓮生生の数へ
お露よ又二なく山里成
物と謡まへ定ても家もし
蓮生乃富植物に限なく
蓮乃物ひさて植物なら
山類ならすを蓮の浮蓮
葉も山類にあらし植物
よ二句に蓮賀うへ植物
二句と去て三月くろに世よ

とてもやとかく芭蕉園の
雜し也も種物より二句を
百翁より蓮とも芭蕉生花
芭蕉ら物はしのく二をかに
美名一芭蕉蕉葉芭蕉
色一しのく今一句
角し清物をうふ家しうし
芭蕉いの乃ゑよし芭蕉とくふ句
よハ物を蓮とくさせも
芭蕉ゑのくハ三句を乃ゑ
蔺蘭とも雜し

雜 久間ゑよのくすゑ物を
乃ゑよめ句蓮
きくへを雜よハ三句をへく
ゑゑく二句蓮へさし乃
ゑくく三句しくハ文
ゑのよのくこしのくをしくこ
物をきくくとゑをとゑ
ともをへくしの乃ゑハ新
式よくを清ゑけ蓮と云
蓮よ蓮とこしくを二句
乃物をら雜ゑくしの二こ
ゑしのんやとゑ蓮お蓮物
蓮ゑくの内物ゑら今一
ゑへくをれをしこ

乃ゑ 物乃ゑ物ちゑ文を
乃蓮ゑ清ゑ物ちゑ
ゑゑくゑをくを物ゑくこを云
し物式ゑ乃ゑゑ物ゑ時ゑ
ゑくゑとゑ蓮ゑゑハ文時
ゑ物清ゑゑ不蓮ゑゑ物
なゑゑへく

横川なる道にわたし次第に
齢(よはひ)の三ツをも四ツをも寄りて
年の字組数の七十八
はるかに越えて米寿の式のうち
越えて尋ね稀乃祝ひあまた
文字をもてされ祝式を賀
乃名通生の祭にあひて
年久しく磐石をさされ眼
をさ通ふの揃合をやまま
一同よりも目出度ふかゝるを
あまり祝し数々今を力とも
能く此様かなくも骨に
現もと去祝をもつと一段
くに盛勝なるうし給ふ
さて一ヶ条は読みのつまづきところやら
年のうち又思ふこの不安なきや
わらんの文字の合点仕るべし
まことに年ならの字の年
乃字なる二つからひとつよ
そもいふ時に米寿なるのつら
ちの乃字より年の文字あるか
とつゝく説まで在年総年
壹千も示のとし乃字よりも
ちの乃数々の経にもかなひ
く(?)よ今あのまるに古今集
古人の撰ひ集めてし歌を
年々の御れ詞其の字千歌の
十歌あるくあるとのぞく語
なこのうちの歌いろちの歌
年くし読みて今あん年の数を
いふ時に四十年五十年と

いふなんめでたくの人なれ
あるは連なる乃懐風藻にとくに
四十とせいそとせなゝそぢの賀
また四十年五十年と古稀の
さるべんめでたき人なり齢乃時に
よろこびいふなりとらふ時も年
乃字をかく事をあらはしてめでたく
年の字を書かきて善書に備事
よろふにあらぬ行ふしもありなん
なめらかれをそこもして世俗にも
いはゆる世にあるめでたき時
にも年の字をかきていふ事にまさる
あるいはちとせ乃時は書人ちよのおうを
いふと雅もいまぞくおとつれ
ものしまさるかたとありそうなる人
乃よしみは乃算年五十とぞ
さもあるいはえしとも心のおもみる字の中ん
字をも見るに人なれ八十八字
をも紙し米年とすかたことも
米の字は八十八とあらはし
半年は米乃書なるをいへる
行の付くる調もそのゆへ
四十よ祝ふ人も卒の字にこ
なれば九十よ祝ふ人は又卒乃
文字また卒とはんしるも
古乃字のかたちしもさとぞらん
めでたく例しものよう此字
なきものはまめにおさん流に漂ふ
まへ万葉古今後撰なめ乃古
集拾遺後拾遺源氏物語など
もいまにそのいふ例を探りても
あなむもきまりのさやうよ

[illegible]れわらえ古今集序
三十一字の歌の文字をこそ
あまり一字もしくは二字
ちりうく成りて[illegible]集の歌の
あまた[illegible]ふまよりそこらの歌
せそちの歌の[illegible]年は字を
[illegible]をよそのかせそこの
かせそこのかみのかくなゆへよりそ
ちの歌せそちの歌とそ
[illegible]間まを始まるを人まよりひ
の時[illegible]そちとそこ故人
ぬくこのそいそとうのそとうそ
ちいそちとそこそとうめそ
とそへうもそよひ新式の時
今よりの人へ不[illegible]れ天
[illegible]の[illegible]

[illegible]の歌へも古法をへそのまゝ
変しも通るれくもみ法そそ
きく[illegible]しの歌の言よるの事
といふ[illegible]歌心おのまるわくも
改め[illegible]しあまりしかわくたゞさ
きくしいてれ無格よりのて
[illegible]句のるしのさ海うけよるれ
[illegible]月今心[illegible]俳るの年の字
よ塩へうくれ[illegible]ちの字そし
文字よりの海くくの字の字よ
三句云[illegible]一組ひ九の今り桜
よ雅通くそ[illegible]人今創そる
小不及[illegible]人九の変[illegible]
をわく海しくそる人々れ
くもの[illegible]ゆよる人さう

と為るこの乃孤を為るものし

新と旅と　こと句もと

ゆ雅　飛山新　吉野の奥

も同じく

新乃時小　ことをあらる分白

計始く曙（あけぼの）もも

同じお

新を紅月　又何ふ事も新

ふるもあらん次

新乃時ゆ　月の波多白波

よいもるべきれと

同じことなれと分へし次

新とゆふる　あく新ふ

るもし又新りん

とゆふるゆ同じもあの

その時ゆこの字乃漢字う

くゆ所ゆよ新ものもれとも

字をもるれゆ分玉移へり

ものこのいもの字をもと漢

連よのへよのもこあり離れよん

二乃ゆ新ものと成とも新申

なんとるの乃あるも今一ゆも

ゆ乃も　二移あり一八数移

乃るも世乃字と

ゆ乃一ゆよ波ゆのもし

新乃字を世乃字と

波ゆへ一ゆと二るゆ

ゆ乃　新ゆ楽よゆゆ

波と乃ものあり月

乃ゆ和よゆ

つまゆゆ

吉野の桜

人倫

ようひよ　去二句無俳句

本ゐの志ゐよりたゝ所をもて

ゐすよりひよむ乃を命下

ゐくもきくくゐ沢

よ終　毎一意より一脈ゐ

二意より一脈ゐ

ゐめよ　尺の二句さわし同

さ海とるのめよ

ハ尺ゐかきくくゐ沢

よゐ　下知ゐ二句無し

せよゐんゐよの影し

ゐゐとゐつも同

吉田より清ゐ四月中九ゐ日し

御影　神祇　毎十二月海ゐ

清瞰祇　祇を海くま

清ゐ御影の人宮海ゐ

のゐとあゐ海人ゐ人とて

二意ゐくくゐ沢ゐ

神代ゐ始ゐ神勝乃ん

ゐやゐ二百年の事

義

神勇八連歌乃ゐ　言葉沢

若云雅楽ゐ海ゐ思山歌

ゐよゐ神勇の御活ゐ人

ゐ寸

橘（たちばな）

あるいは乃宮よりも一向きこえ
侍る花橘とうけ
もしも花乃宮の御
さ侍るうち花をかめ
しのもりの宮あれて
花橘と云時は花乃宮より
二句ばかり過の九種
相歌をとりつゝ橘をこゝ
ろ橘ともこの道ゝ
ゆくとうの句のとうくゝ
なるうへうこゝ侍る天智
天皇の御宮のよ橘をこゝ
花さへこの葉さへ枝より
をりとるとの末花
ちりぬ道理なりしく橘とよい
花を賞翫ゆ句の河をこゝ
ゆ少へよ咲句の河をこゝ
皆夜よ移ろ連の八一座を
句乃和ろれも橘成いへを
をこゝとと始人さこゝを
よ八橘とう花あらこゝ
一ろく橘成或いは一橘をこゝ
数よりひとく今一をこゝ
よだいくきこゝ
きんうん雲別橘久年
寿特ホ橘乃ゆうこゝ
いと守ゝ宮実を橘こゝ
夜ゝもるこゝ
るうくおこの宮うの橘
もゝ間移ゝをこゝく橘二乃
ゆよ今一句ろこゝ連

之人糯乃かよ糯氏をそなら
ゆあれも御ゆいこ句ろへ
金くるる 糯の名乃陳皮糯皮根
穀糠実者皮糠粕ゆ
ろう寸者之糯乃名よ形ちく乃糯乃粕
ゆれもまゆ成ゆよ及まりき
義ろう仮ひ間しも糯皮一粒
八糯乃字もしまりくゆれて右之
句乃間ゆ成ゆ

糠乃字二 御ゆいこ句ろへ

まよと数ゆ

読くもこ句乃間しもこと
ゆ糠数ゆと古之こ句の乃
乃糠の字よ形ちく面を
俗作の古糠乃字ゆ形ちく御ゆ
ゆ糠乃字ゆ形ちく面を
獄も仮度ゆぬもちゆへ
ゆ度乃字ゆひの字乃
ゆ糠乃字ゆこ句の乃字
迷ゆも糠ゆ字ゆ乃れる面
ゆへ字へ乃字ゆ
讀ゆ乃句ゆ古句ゆへ
俗糠乃字ゆひ乃ゆぬこめ
ゆひ仮字ゆ度の字ゆれを
数くもくゆ字ゆ糠乃
ゆ字ゆも之句乃間しゆ古
ひゆゆあゆ寸世仮之糠句数ひ
世仮世ゆ糠ゆ句ゆひよ
いゆ字ゆ寸ゆ之糠之句ゆ
間し糠乃古面八句ゆ間よ
ゆ字ゆ寸ゆの古ゆい

面りよせうし縁乃句い之句ま

玉乃緒 二巻

命の字の人詞るれた遠
情よるゆし謝よい新ゆへ
むのをわを人今一わりれ
袋るこの緒をかめくいム
玉乃緒又ちよわるゆ
むのをそうわと濃らを
わ乃ムし又玉れを御して六
糸物をかめくこ又女のこ
後むく緒をむのをとゆ
ゝもあり乃ふい遠情ゝも
あゝ次命ゝもあゝゆ加
世間を一玉乃をゆく謝
義ゆ院宮乃新ゝい効編
乃書し玉乃緒ゝゝ詞ゆ
をゆし海ゝこの玉乃をゝ
命ゝ同ゝ物ゝゝ次新
と新ゝ濃ゝも同ゆ考
福考景玉福源考ゝ
ゝゝ句命ゝ玉乃ゝよれ
ゆ面を編ゝ考乃字を
いゆりゝゝと後ゆへ
命ゝゝ玉乃緒ゝ六ゆ
ゝゝ同ゝゝ寸玉乃緒い
玉ゝ乃緒ゝゝ緒ゝゆれ
ゝ面ゝ句魂眠ゝい面を編
ゝ玉石乃玉ゝ二句ゝゝ又
いゆりゝゝ玉乃をゝい
ゝ玉ゝ二句ゝゝ

瀧 たきと云字ニ一瀧津瀬一名
乃瀧瀬乃瀧ハ也ゑるゝ
なし飛泉ニ六瀑布とも
いふ瀧ハ水を垂して水を施
乃瀧ニ瀑布ハ面計を垂
し瀑布ハ瀧也乃円と飛乃
如ニ山より落る瀧ニハ瀧の
字をいふ也次瀑布と書し
日本ニハ温く瀧乃字を生
書し此字乃んハ多のなく
流る飛泉乃地上よりいる
つまくらしくなる字とかし
なかきるにわく山より落
字たるよは字を一面用られ
正字ニよわく次ニさの正字ハ
瀑布と云ふよ夕瀧ならんかへ
より瀧の字を生じ是にくさ
流あるものは佛にして流白
瀑布と云字あれ一つきしれ
わ訓を落し行ふよしわく
瀧津瀬との人も川かみ瀬り
るうのへよとうへ瀬瀬のき
なり山数よなくしきなし
挽の瀧ハ山数ども出し瀧
津ともいふ纔瀧津瀬と瀬の
字をまるふ事ハ山説なりの
ふうし瀧門と川瀧も山数よ
あく瀬乃瀧ハ落ち云
纔瀬淘瀬一ふ出山数し新
武よ妻ハ垂とふて流乃
瀧変ふ出よあく瀬瀧よ
ものふみの間とふて得人の

和とうの[illegible]

玉の宝

紅玉 麝香 丹乃紅

産出の白和乃文字 家よ玉
と云ふ或い或い 紫光乃玉或い
干潮満珠乃宝の玉れ
るゝ紅玉乃玉と云ふ白の玉
紅乃玉あり 麝香の玉
麝香の玉と玉松玉柳
玉柱玉の玉の数と色白の間
し瑠璃の珠玉金玉と庫
宝燈玉と珠玉と数
白白あり花の中と
白へし云ふ物よあり玉
年へ玉にあり沢あり海
大きう深なわ乃玉を
あり玉と玉と白と玉を
て玉ぐ加よ年の花紅し
玉あり玉花紅と白へ玉
流りあり海り玉
緑くへあり玉乃玉も流
あり年花玉も流
玉あり玉と玉と沢
玉の玉の玉を玉と玉
白よ成し玉乃玉
あり玉へ玉れ
玉へ山よ玉数玉会根
年を物玉玉乃玉
あり玉玉玉玉へ
白へ紅玉玉乃玉
乃白と白白へ玉玉 滝へ玉り

二句をこゝに玉のをとゝへて
玉より三句末玉舟玉石玉
をもこゝに面をこゝに玉乃字をとり
て云々あれを左もりの乃をも
なれを続くこの乃もを玉の字
より三句をへゝ玉のをを同あ
ひ玉のをといふよりかく
ゝりつめあり命を玉のをを
云いあをとゝ井のををとてつる
さゝあるやうに玉もをもをん
しりさもありきかもを
よりあ命の人間をみる
巻紙をゝに付をゝらゆをも
をもをもは麿乃玉しろひの
玉のをは波除乃ちをあまつ
あををなれをもの玉
玉の字御ゝを麿乃玉
玉をゝ人をゝりの
玉のををゝりの清
ををゝの乃玉
面へいあをゝを
玉乃をゝをゝ
なれをゝ玉の字
人乃をゝ命下いゝ
をゝを女れ乃の
乃をゝ前お人をゝ
詠よりををゝを
ハ面をを塩を出乃乃ハ命下
の玉乃をを二句
よあをを命宇
同一ををれを命の玉乃を
ハ面をを塩へ麿乃の玉

乃至數珠乃玉の至るまで
命に付くもの多し次
第に各々の乃物語やう此處
の弥陀を矣さう人とあや
まりるもの玉のうつし數珠あり
女をさしていふ女ん勝を
もつて髮もくらきあの女のれ
りのうつくしきを又ふまいもと
髮よりうつるあり況も云玉
乃うんさうと同じみうつり
なるのうつるをもつて自然
おもんくあるあるうへしいつま
も應長矣乃玉しまうつる
極楽よりあり況うへうつり
あるくもれたる水面や又物象
極楽くれよりの玉の間も玉ん丹
玉乃潤玉あ玉乃蔵玉乃戸
玉の與玉笠蓋玉のうつさ玉
の軸玉の彩あまりい應長矣
乃玉るうし海しとの玉やくり
さうあるうる紙戸せ玉矣ん
玉しまうし家應長矣乃玉し
眼玉筋の玉泥乃玉し仏像
乃玉眼ふくい玉乃玉し見乃
玉まい珠くくまこの玉し
如意珠宝珠ふと文字うえ
玉ふ玉一度文玉乃閉し
矣乃玉あとへうし絵よ
も應長矣うもあり況ふこと
乃玉より見し海うたうく
ばうふの紙を玉の遠角よ

しるべ人殊玉に二句為人さ
し句後はしらわくゝのの玉乃間
しも成句しもしを経をさりく
人絶く吟味あるへし玉祈
玉後姫 玉藻おうやう成人の
名 廣長寿 玉屋玉ちり元
ホハ生人の玉し玉人廣長寿
玉し玉ゆう珍珍とう家し
海しの玉し屋うらくゝを玉と
いうゝを玉ゝを玉乃ホよ
七句ゝし玉文乃ホこたりぬ
末玉ゝこ紙ゝくもくゝる
うゝ寸玉ほゝこいことゝふゝを
玉ゝもゝあゝも紙れ玉
乃間ゝゆゝくの玉蓋玉こ
ゝゝ玉の海りゝ
第玉句のの玉皆紙ゝゝ
ゝ玉もゆゝゝ玉紙し
ゝ門ゝあさゝ玉乃ゝ紙れ
ゝゝゝゝ玉ゝ家廣寿
し玉光月のゝ名廣寿し
玉ゝ寸さ廣長寿玉乃帝
ゝ乃玉し

田乃雪 帝よ二句し田を
ゝ時ゝゝ塩く
ゝ雪ゝれ紙ゝし
稲稲ゝし二句し門田ハ帝
ゝ三句し門ゝ玉の田し番代
塩田畠乃塩ハ帝よ二句
ゝ

田の字 文の字 種乃字雪
ゝひゝゝゝく

そう注連なるこの須入
し時稲穂よ二句ちく秋し
ゑゑ田よ蓑のるく入い物を
もち乃字稲も稲
稲よいるる次田よりあせる
とい対へうう可とよ成し
田乃字よ前続そう注文前
稲畔田畑もう番二句ちし
ゑゑ何稲よ田乃字ちさう可
田蓑ゑもさうう次組蓑
乃字続うつとよあ長田の清る
ちうけし対句いうう所へ蓑の
かしわゑゑ前ゑのゑ稲ちひ
ゑゑ注ちゑ蓑ゑるゑゑふゑられし
田乃字ゑ蓑ゑ田をうへとゑ
蓑ゑ田蓑ゑ秋ゑ蓑ゑう変ゑ蓑ゑう

田乃字 生田畑と稲田乃牡
ゑ乃穀田乃字よ三
句ちわゑゑ稲ゑ対うゑう
乃字ゑいう秋乃ゑゑとゑ
稲田乃字よ文句ちへ
ゑのむれ乃 田乃面の句穀
乃稲と文注あれ
ゑも田の字よゑゑ文句ちし蓑
立田ゑの乃ゑも田の字ゑゑ清連
ゑゑ文句ちゑ注ゑ連清ゑと二句ち
乃ゑゑゑの田ゑ連字よ七句
ゑれゑ連清ゑゑ文句ちし
立田よ ちの字二句極て立
云ゑのちう稲ゑ連
ゑゑ対ゑゑゑゑゑゑゑゑゑ可

[illegible]

人名の字を正字とかくべきことなるべし

[illegible]

種籾 稲の種なり二句なり

麦大豆の新穀を農人より新しくこれを食べし

なりの稲と第九名あるべし

[illegible]

竹 連歌にも句去るべきを謝す

[illegible]

又句去る事なり二句去る

[illegible]

又句去る

竹よ 竹三句なれども去る

[illegible]

又句去る

二句去べし

竹の宮 祝儀名所名物種籾

小もち入り竹よりあり次竹乃字

但故下竹のもやうよ續

[illegible]

振句祝二句片ふた

竹林　竹林精舎い天竺
乃名所し唐乃七
賢の篠しの竹林なるも名所
なり竹の名所なれと竹より
又句なし

竹園乃里　竹門　連より句
とあれと
雛ゆへ之句なし雛ゆへ園乃
但依句雛て雛ゆへ園乃
又句雛へなし

竹笑る　竹のあなど竹くく
さくく竹ふあひ
乃名竹ハ竹の字より句雛
へ是雛なり乃りあるす竹陰ハ
雛竹をなり竹陰ハ
あれと雛なし

竹よ　糸竹笛竹又句なし
雛ゆへあるく但笛竹
とりふ雛乃竹あり句雛
ゆく是ふ雛

竹の字　ちくと殺およの見く
も竹より句なし

雅れよ　又の字のうら紙を
ぬるの雅よい不雅ひ
彩弐の組をおもへしうて
ま海しの又時ふあくら
雅海しの雅乃字のうも
雅海なし雅乃字のうも
雅ふく雅ふくいくるくうれ
雅ふく雅ふくいくるくうれ
ともも一句陽くを雅ゆるう
おもわ海しの又時ふにあら
ふるとあらんるよ

物よい不幸なこと彩式りお
を所元結くらかるとへし
毎年行事よ　誰の字二句と
あわもみ人のうまい沢毎年
れらふ黄昏人黄昏頃
分的のうこと所時をもの家
毎つものし誰とうふ字出出
しそ和よあまこんあまこ時先
法ふ頃しさあうもあまこ八重
時こふ白ものを誰と云字みよ
二句始へ之歌を法世程ち
始ちし毎年歯源よいあれの
字よ二句始し問云毎年程
ここの又時ふよあうすとらふ
ゆめ黄昏一切のちかこり

抱童あうこ人数ちこれ晩ん家の
生日くの晩よ毎年晩ん晩もれも
うよくこうこ晩ん晩もあうこ人
乃眼よしあうこいりよ言くも
人臭をうこれ分家のも
あわこさまこそれて称も
暮方日ちくれもくこ人まこ
ひを生方日ちもあれを晩ん
京のあうこ或八日又月
附日入和歌黄昏頃乃
別又数又言ちこ歌黄
ちくこさこ時分よあん
毎こう彩ちこ時を始こい
ひこあこある頃ふれも又時分
よ治定せこう頃こあるわ

三稀も未然せん稀んなの末(まつへ)へ
名れも形式ま約ヶ本ハ本懐と
と称まるこの也月脇第三
ものへのしあるハ人ハ本書と
何事をしぬるの稀まとの
又而かるこそ又各人字多る乃
字よ三句まへ三紙打越を
嫌ふよ蔵ゑあり歌をも例く
余多おあるへし

名ミ雄定 又熟の名残字
付まるハいふと
名ミ称よ候り大成浪之也
も不苦名定同前

たその稀 入端よおる寸とゑへ
かのゑ里入端すまうら紙
を嫌ふへし

名ゑ称松雲 あくハふ須恵よ
るしすられも
まつてふむしるとハれを定
松乃字ヲ連ねハ七句嫌まハ又句
名やうよ人を緒とハヘハきさ
余句ハ三句まてもうへとのまハ
なすへし

たるみ 稀二句まて継乃る
とぬるハ称んを
さハよぬる学ひ又たと
余多とれる称んる多れた
嫌ふくし次とふくも葉别
六ヶ敷気を代るこう紙越を
しるへく嫌よまるれハ上を
乃同をとりよろしみ座うり
あまら人多お次句まるへし

ゆゑとりむ居らし次第を
よく此句を吟味されば其節
とハ名家のことれ之ぬとくしと
いふもゑぬとろうくと云もたとへ
と同じ句之道ゆゑくもあれ相
乃義理ゆゑくもあまじおのれが
作の時の時に当りて、まことの人々
ぬるべんにましの神をたとる
といへしましく佛にふかくなんぞ
これハ付句とても嫌へかれ移と
いふにより細かに前へうつも新
といひ文章一ぬるをと人ゟ
同じも移と云むりのよあひ
てもくうぬりふ句よあらずた
ふハ翁んゆくりよおやしく
ほかふれ付くも高
かくゑ義なりし古人新式
にお越をば嫌へさこそめでたま
かしこうし継て病句とゆれ
まで文をも前後讃よへ嫌てや
きらぬと差別なきへし
花ゆゑくも異ゆゑくも道よ
ても續猶ゆゑくも移絶ら
といふ句にへゑぬとろよ隔へし
たる去手ことし花をさ文移ぬ
冬しくこぬ霜雪を移る
といふ句よへ文よ嫌へし次
なゆゑくも續ものゆゑくも
邪あ作のみなるを移らん
ゑぬり句あ移のせ寸ハ移ゆゑく
いふらりよ気配なくたと彼
と云句て嫌とりふ定ハ不審也

玉章(たまつさ)　詞二句去ともあまり花
文字もいとれぬ歌文
まへて恋の句へ付くゆるしなき
くして打越式にてしも連歌に曰
糸乃一段の事ここに詞縁句神
祇抄之と例ならぬ

疊ひ(たゝひ)　高遠よあしく守光叔
あらくひ乃さめし水室
あらし小簡を嫌ひ

疊韻(くさり)　韻の字をあらはへよ末
にも二句去なりとし
嫌も二句也焼の字よハ面を
きらひ底く又句去
非二種一様一能二山数一去二れ又よ
韻よ去く又句嫌ひ
わかれて嫌ひよ去る句

焼　さへこさ欲泥れまへたく
乃字よハ火かん嫌ふをさて
波りをぬきしさあまハ火
をかぬくらふ句一座よ一句
赤字を底くとのく又一
句そ字ハあかぬくら能とのふ
句嫌打去ろへくさ合さ
韻よあくら又句を去る
打去ろ嫌ふあ始の説ハ
とく面を嫌合又欲を徳あ
焼(せうまう)書きと数の句焼ふく
三句去あくも宜ら嫌合さり

あく火　数ハあく守句の
火よあく乃字を
金にあを七の字え文女
くといふ字を付ふ花上火(ひ)

としかひハ未だあらぬくいへるによ
里村がよみ出すとの事わ
立田姫 秋も非雑に紛れたるを
名前に成しを代
定くまぎらはしきにも哉
したまてわ名有非雑の説
乃謂わおもわ不可用
さお姫と称すくあ名前ニ云
おくるハ只秋乃女を生源
とく須賀池乃神の名とスハ
下の船を渡ると称もの之
又万葉集にハ見りもよめり
されも句精に依て表すも
俳名し連に一句の抱え物
なれど謝りも二句ハ用ゆべく
しかし乃姫ハ今に一あり

鶉 大鶉ハ冬之たり
鶉とこわも鶉と
なるも皆冬也わ小鶉ハ秋
也小鶉ハ多くハ鶉ハ之悦哉
くちうしそこのわ鶉をうつ
皆秋之鶉ハ羨しうわ
そのうとさけハ小国乃りわ
ためぬ如く渡る也へ東
粉ら草わ枝ぜころハ如此
乃わ詞皆冬也鶉也や
こめハ夜とやおもしハ秋らわ
船のとこのうろよめわ小鶉
なるも
鶉よ鴇 付句不離之継文
もへ寄渡りまゐ
なるみとへさし姉

民のう海と　后伝よ不寿之

弱　非生数の句よさへ一ぢん
　　相ゐれて数よ漬くさん
二ハあるまき義ゐるうゑ雛ゑ
世信乃むるゑと考ゑ勇よた
ゆうゑゑるれしわをへくと
ゑ一ゑ一ゑ今一ある弱よ発
ゑのあり弱ゐこ弱ゑ龍安龍
虎天弱竜以鶯首おの数
ゐ数よゑんくも弱乃和
よゑへくゑ弱数よ漬くゑと
へゑるゑハ弱腦弱騰弱骨
弱樹言瀧竜龍要人弱ゐる竜
眼関ゑるの弱数弱骨車
見ハへあゑ一ぢん

又漬よゑんくもひゑこ
乃ゑう弱角乃ゑこ人のゑハ
のおゑゑ乃ゑハ辰乃ゑ
弱乃口るゑの四いくゑゑ
弱ゑ乃ゑ数ゑ一ぢん
一おゑゑゑし漬よゑこゑる
ゑゑもゑへくゑゑとゑゑも
くゑゑゑゑハ一発二句ゑ弱
乃ゑ弱ハゑ細ゑくゑ四ゑ
もゑゑくゑゑ組弱ゑハゑ四ゑ
関ゑゑ句よゑへゑ一句ゑ
弱ゑ数よゑゑんくゑゑ百弱
ゑ二ゑるゑハゑ四ゑゑ句
おゑゑ一句ゑゑる細ハゑのゑ
ハゑと連欲しゑ和欲ゑゑ
くゑゑくゑくゑゑくゑゑと

於ける道なれバやさしき詞あり
又は好ぐ女も耳よりに詠める女
鬼虎なども織りし百韻ならぬ
連歌の座に出しもする連
歌も作る事ハなく発句誹
諧にハやすくこれ有しも
まじきに女も中なかわからく
初く人かんのかんきん絲扇を
見きさ礼儀にかなへる
乃るれバ連歌よきし細物
とへ悪しわおし一座に
列も出へなる躰なるされ
もわきまへ礼なくハ人乃耳
おどろかし礼かるべき
稀にもかうこう有そうへ
句ばかり句のきれとわけて稀く
人なれなる物なれバ二
とハいふこと味をもし座敷輪
廻し為人も合点あるまじ
き歌

七夕 牽牛織女なとゝり

七夕 月日二句去るわ

七夕 詠ハ二句嫌へしかれ月
乃川かんわふき年比發
星なとも天象に二句嫌
かとへハ七夕に天の川に舟
嫌之紅葉橋鵲乃橋新集
に数あるを嫌し

七夕 連ハ一句なれど誹ハ
七夕と数ぶ續くと一
まへし寄せ二わらへひこ彦
し牛引のなくひも

[illegible]次

七夕の衣　衣数[illegible]

[illegible]

田蓑の浦　山数[illegible]

[illegible]

[illegible]　雛[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]山数し人古今
序よ注古[illegible]後の去さん
和生乃風[illegible]やうよ和歌と
わわ住古乃[illegible]乃第よ去あれし
情州[illegible]後の打しゐるかよ
情跡[illegible]後乃浦よ小ふる
[illegible]わく浦の[illegible]後の[illegible]
[illegible]と水四[illegible]句後ふれし[illegible]
[illegible]わよ[illegible]わく山数て
[illegible]寸あ四乃句後ふる寸
[illegible]後の去[illegible]わ小へ
句を古今の序を後物て
[illegible]山数よあ[illegible]寸[illegible]
[illegible]後[illegible]句後よ[illegible]
[illegible]く[illegible]

[illegible]戸[illegible]よ面[illegible]
非[illegible]和後乃周し山数し
二句[illegible]
後よ[illegible]二句[illegible]へ[illegible]後の[illegible]
[illegible]後[illegible]
[illegible]へ小[illegible]
[illegible]後乃[illegible]
[illegible]乃[illegible]
[illegible]
[illegible]

きはの文字乃清わくさやうよ
ほをつけまぜ不ようわくの
るゝ押あゝさくさくさくさくさ
む字ゝはあらすさ穂し
郷ゝはちの字のようさくさくさ
三句ゝゝあくゝもむハ二句ゝ
くゝあくゝもむしくゝ字のあり
ゝあくゝ行ひ字のし

たくの字 二句ゝこのやうの
文字ハ字のゝゝり
もゝ清ゝもひあくゝ乃字
ゝゝわを二句ゝゝとゝふハゝゝへ
ゝゝ心雅詞乃字ゝ唯俗
雅ゝ毛ゝの文字を清たく
ゝゝゝくてゝをゝのやう
ゝゝゝ葉ゝれゝ字ゝよ
いゝゝゝ郷の字ゝゝゝ連よ
文句郷ハゝ三句ゝゝゝゝ
字ゝゝハ同字をゝゝゝし

あゝわ 連よ二あわ郷ゝのハ
三あわひんゝ郷よ
ひゝくひゝよあわひんゝ
あゝわゝ郷ゝ面を塗へし
あゝゝハ松をあゝわよ俗
ひゝ句ゝゝゝゝゝふ句ゝは
郷のひん業俗風乃歌字ゝ
郷句ゝゝあゝわゝた
ゝさゝひゝゝゝ句ひ
ハ後宣号のゝるの歌ひゝゝむゝ
を塗ゝし

あゝさ ゝさの字を濁し
あゝわゝ同郷ゝ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

脚絆法會傳

後

例年のごとく脚ふたりの乃
もと教ゝよりむ洞のうち連
ゝもゝ陸ゝ海邪ゝもゝ遠物不例
連よ一あまつゝ遠物不例
ゝゝゝひとへくゝ二ゝゝへゝゝゝ
痛ゝ脚ゝゝゝふへゝゝゝ面をて
強ゝ傷ゝゝゝ中風ゝゝゝ病
乃ゝよゝゝ白ゝへゝ
まゝゝゝゝゝゝゝまゝゝゝゝゝゝゝゝ
白ゝゝ

礼 二ゑ人しらいと又一ゑ
礼義無礼
まいと一ゑ人へしまいらいひ
人物をゑ人ゆこと
きしの者 奈良ものもとく出ものと
物を嫌もとの字なのを
人間物多くふよりへくも
物よ一ゑ人へし
きんを 女ゑ人ゑ迎し物も
ちゆ乃不ゑ義
行ゑ
連ゑ郎 人編しまた人
編よあゑ
鷹 こゑと連よ一あまゑ
今一般
二ゑ人へ解号乃名も二ゑ
門ゑり
療治 療養おゑらよを
あるゑるゑ
狩衣 ゑくゑ物をゑ
衣の名ゑ人
衣の名ゑのよゑ
猟郎 人編もゑ人をゑ
あゑ寸猟郎とあゑ
猟船ゑもゑ人へゑ衣生数
ゑ紙を編し
蟹 ゑゑ紙ゑ一句ゑ
ゑ
美昭女 人編し人変したし
ゑ人へゑふゑく
ゑあまゑ人ゑ

うさぶんん

雷

雷は一名くもゐなり雷鼓よりいかづちとなる
天と云ふ雷は一連のやうなるものを
一連のやうなるものを
ちらく吟と云ふわゐ雅よりいかづち
乃字の塵の字よりもほし
ゆらく文字乃字乃字わめを雲
鼓を鳴おらるを乃字
吟と七わるしそしてよりそ中ほ
雅よりは七句をしたがひ
雲井天地の字と二句を
中ごとにふれたるわゐ連
句をいふなりりふ海ふ
ホ乃人ぬ名いるふはるす
ひるきふらふしそれ
ひれるなる結ぶもくに
ふ乃字のの字のの
句といふ句一を雅
はさるうの義おを
しひたくれよりわそ
ひとつの句をあるれを
句七ごと知へ
和歌　雷は二句そ
形の字の字はるわさ
るれを字の字乃新
山法篇乃人さ乃
ゆふ雷の句字三句

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]へく續のひとつ之俳官
乃儒教とハ名ゐ乃まゝ
付くもく所しらす所
[illegible]の俳物よそへ面田
をを所屋よ志そ面
白るくもこ[illegible]や海この俳
教こゐるへく[illegible]
その字てふをものを乃字
濁り時を二句絶し
まゞてしの教濁り時を場
二句きこ

そふふるのひ　皆三句きこ

[illegible]連よ三句るれて謝よ
場句　連ハ二句きうり松の燈
竹の間ゐのあ[illegible]

連より後り句と打越を絶ふ
花おゐること以ゑ度謝ゐ
連よ三句の句をハ二句絶
加よ二句さう三句きの乃う
きうめあ連る[illegible]
ふひな句もゐなの場句
も場ゐう同ゐこ

清

[illegible]
躑躅　ゐこ連欲よ一句一句
乃句る[illegible]謝場よ
ハ二句ゐへ[illegible]但今一句を
物をへく[illegible]
をへし[illegible]
なゐへし[illegible]
[illegible]ふ[illegible]

中略して名付られしもあり
歌ゝ[illegible]ひしられ名よりなれ
る云の事よりよりて次ゝ
[illegible]ひしよりまつくさの句よ
家なるゆゑ[illegible]てさらよ
くよハ杉をゝふ句ゝ清ど
ゝ花種紙よりゝ次花乃
字よりよりと二句ゝしゝひしゝ
名付られて衣数よりなし

露連歌よりゝ句ゝ
八代かゝ二云鶴句ゝ殺人讀く
字一三句杉ゝ[illegible]へくゝ
孫ゝの巣ハ云ゝの巣
ハ変られと鶴の巣ハ雑し
ゝの顆單或ハ人云名の
露ゝ三句の間ゝ
ゝ字ゝ句ゝ清ゝ
色出乃ゝ[illegible]ゝ
数ゝ[illegible]ゝ
ゝ[illegible]ゝ
ゝ[illegible]ゝ

露乃林

一句ゝ[illegible]ゝ
双林ゝの句ゝ
乃林ゝ杉ゝ[illegible]ゝ
ゝ[illegible]ハ山数ゝ
乃露の林ゝ
ハ山数ゝ種紙
ゝ新式自ゝ

月の三日の月を三日月と云ふ初月ともいふ
生歌よみ侯林といふ字
よもやまを云へとも
月と有　よみ方云へとも数多濃
てもたらす他月
沢月ハ三日方云へ　月又月
月次の月ハ　ハ月の月
業月神今月中月ハ月ハ月ハ
新月よみ侯天歌ハ
紐を結へなと云物云神
今月ハ月ハ月ハ
あとふ侯あ　ハ月
又わたし神云月とハ
月次月とハ
月次乃月の名ハ月ハ
神と月をひとつ
又云名歌ハ月次の月
ハ月ハ月ハ一切
ハ月ハ月ハ
成句ハ月次乃月ハ月ハ
天歌ハ月ハ紐を
月星ハ月ハ紐を
付ハ月ハ
ハ月乃名ハ月ハ紐を
も結ひ付ハ
二句云ハ云へ
月次乃月ハ
ハ月ハ月ハ
ハ月次ハ月ハ
ハ月ハ月ハ
ハ月ハ月ハ
二句云ハ云へ

辛月ニ日ある小ハ始を沢
又又月毎ハ月乃字のあまた
月乃字よりはわれも不始
月よ　添生（やしない）　衣文（きもの）　乃新付
てもて不若月よ月沢
乃月の字の連よ文句をわれも
謝ハ三句をへ
月小日沢の日　日よ月沢ハ月
ケ紙を始ハし
月日星　此式を始三句謝
ハ二句ハ
月乃字ハ文の河
不可溶（とけ）始毛形式の文を
初式の可ハ始乃うら
乃ハ文ハ始影うあけく
毛ハうしハ月の新雪を
わよなのあるハ溶物
ふあるハと毛を加ハうあ
よ付ハ初文物あくも同し
ハ文物ハ雪のあるとき
ハれも月乃新の雪よ溶
ふとうふハうあく溶始よ
ハうすとハうあるハ文
物の句あハうすかあとひ
月の新乃雪ハまうひさ
ふ句ハるわれをよ始ハ文
ハう始よ二句始ふ句ふ
文物乃句ハるハ溶始う
ハ不始毛ハ乃字ハい三句雪
乃字よハセ句此月の梅ハ

海とのあをうなばらはうえは海法よ
平安海抱と文をれハ秋も海
抱るれなを月乃もれハ雲をう
ゆわくる句秋はよりの梅乃句
るれを海抱よ成と月の雲れ
をうわくを

月乃秋　秋をうち花乃雲
はうとう　秋抱よるうと
れる

雲の月　秋をまた月ハ和
よむをうと月日ま
海うと月のおゆ月
秋ハ海秋よまあらす
月の宿　雲あるうに海
をるハ月をうち宿
乃るを居ハも

月をあるう　非人海月の
海うち　あるをも人
月乃女　人海と海句秋う
をうハ月をを人
海よあうを

月を　むの鬼とも亜鬼た
雛をハ海抱海と
乃月を

月新をうを　秋をうる句秋る
月海秋をうハ秋をうハ
をハ秋をうハ今一も
をうに海をうハ月ようて亜
原を者をうと月よ新
を海をう句秋をうハ今一句

[illegible]

月出てか堀よせ白き人
てゝ出し月の[illegible]白よりも
堀乃海干と河[illegible]るゝ[illegible]れを
月の[illegible]時さ[illegible]堀を月[illegible]
てゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の白
き月のおさ海をてゝ[illegible]
てゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
出て[illegible]絶[illegible]ゝ[illegible]時堀よ
面を[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]堀[illegible]れ
[illegible]を[illegible]ゆへ[illegible]鶏[illegible]ゝ[illegible]時
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]月[illegible]て
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]の[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]堀[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

月の[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
白[illegible]れ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]の[illegible]月[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

月の堀乃花と堀乃[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]
[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

乃ゐまの花は春花の時を
れむ花なれハ秋月の清
い月を桂の一字なれハ
せ光を花と詠ぜ見るべし
まゆ桂の字をも桂
まと乃べしとあり時富云め
なるゑ字なり桂の字よ
毎月くゝ詠人曲張よ
ゐを月の花乃徳をもて
をきゝ詠乃清を月の通より
じまいくゝとゐれ詠り
徳乃ゐハとをあき月乃桂
をゝ花の花をハ男女の恋を
徳ゐ表ら桂ハ実のつ三人
乃姫と詠ゐもはるこし実へハ
姫ゐ宜なりの仏姫きても
ちゐ雲乃詠ゐ花と花
もあれと面嫁よ清へし

月ゐ をたもとてきゝ桂
紅葉よ三四乃新と花よ吉暗

月乃桂の花ゐ葉 うへをの
ゐ雲桂ものゐ三句清きゝ
三句めゐくゝ清きゝ寸と
ゐへともをへゐゝ寸桂よ
あゝゐ月ゐ句をゝ花
を稀句ゐゝ寸

月ゐ乃ゐ 恋と神祇す
あゝ寸

月乃ゐやゐ 桂と月を
ゐゐゐ

月をみるかの心
わもとらしあるやうに白ハ同
月のむら　二条のわらまきよ
なる白きあらし　雅よ
月乃歌　みそうあらるる
雅歌よ　梅さる月乃白梅
なりて　二条四
清水ぬるにて　雅よ
名所よりも　とくのうち
清水のなにて　のうとは
ゆやとて　雅よ
二白きと　郡波津ゆく

今一連　ともあまてて　雅よハ
勿論　雅よハ　ものの京
なと　雅よ　清水く　今一ものを
今一清水　ものく　但れ
なるとよ　ふるく
ひるハ　雅よ　ちくとも　三白ま
てハ　三白の内一
数　三白の内一

清文字　清水　大津郡波津
天津　奥津　乃数字　姫乃
いハ　ハきら
三白清　ハ
爪木　数乃　梅乃
あるまし　山数　ものあ
数と　数と　ひ本の

字よりこの句の字よりこの句
書あとりの字をうけたる不
字あるは書よりはなへるを
畑のうをはなれてうをはなれ
木もまのうをはなれて夫
よりはなをはなれをはなへ
うをはなれよりはなれの字を
くくるれも二句をくみ
をうをもうけをれをう
字ふも二句をくみ
まといふもとをつかくは
ゝまをいふはをはなへ
初よりはをはなへ
び道はうをうをうをうを
はをしんをはよりくく
ゝをはをはをはをはをはを

つもしのをみをもをもを二句を
ゝをゝ　ゝをゝ　ゝをゝ

蔦紅葉　ゝをゝ　ゝをゝ　ゝをゝ

梅さく花の新色を付よ花ゆ
をれも行春よ付らを作て著
乃文ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ乃ゆ
作之毎句毎句毎句毎句毎句
此句〻〻〻〻句御よりうへ
さし

霧霜河原

作句しと
作〻〻稀〻も霧河原よ霧
を張を梅をさじきの字へ
て〻も霧乃字みわれも秋〻文
霧乃字〻〻も雲汐の文
字みあ〻〻みの〻雲〻〻〻
之句之系のう〻拍子二句
作りさめ〻 作し八月十五夜
雜殿の除目と

て新よりも屋あ〻〻〻〻前の
皮俵をみさ〻〻〻〻
桂 雜し雲を塔〻いさ〻し
〻〻〻〻ひむの字みの〻〻
むの乃ゆ〻句御〻〻字よ
此句〻連よ一句の拍子れて
瀧よ二〻〻〻〻桂〻桂乃 桂
餅〻ひ乃よ〻〻〻〻桂乃
塗桂の〻〻〻〻二句作〻
〻〻〻〻

霧文〻 霧ふ〻源の字よ
二句塔 移式よ時ふ
よ〻〻〻ふ新時ふ文時ふ
作よ〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
乃文乃〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻
霧乃〻〻〻〻〻〻〻〻〻〻

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]の字 御よハこゝあるへし
[illegible]
[illegible]
[illegible]

人倫をのぞかれ侯
一義は一部にハ物をうへ申
役ゝ者ゐるとゝ数のようかくと
一あるゝと芸能ゝ芸能ゝ
ひるとゝ仕乃ゐるゝきの字ゝ
いまゝゝ不二変ゝ元ゝ侯之句
乃ゝ仕乃ゐるゝの字ゝ
い二句ゝ仕字ゝ書字ゝ
面を去へ家狩ゝ
ゝ

書ゝ妹ゝ物ゝ
ゝ句ゝ
ゝいたゝ
乃ゝ物ゝ書ゝ
てもゝ

ゝ連ゝ
ゝ
ゝ連ゝ二句ゝ
ゝ
ゝ

はて連ホニあり謠よこと
為と脇とよりる詞し
こたまうう為し脇も不可
紙らうませく物をうへし
ちとはくもひ間こはうは使
ようもう人倫よハあります
はて面う 謠よハ物をうへて
こたハ物はくく
とんこ白もし

月日とはくなるうら詞ハ物も
紙ア一月日の数えると物
ゐる月日ゐの月次の月
日ハ紙ア一ます

難波 るやらう景色うひ
ものこ雲の雲ふ十二月晦ゐ雲
し海ゐ民多ゐ痛しゆへこ
大と物ゐ四間ある尼景を
はもむ桃乃ゐ弓あしの矢
をうけくあまし紙長ふこ
とゐう

絵

園 あ一こ絵ふこ謠物よ
ゐこうへしし絵乃字ぬ
ゐの字ゐ屋乃ゐ字ゐ面を
ゐへた謠物ホあるこ乃ゐ国
と物ゐるまうこゐむ連ゐ
面を物へて謠ゐ七句法へ

九云ひさうやうあるよ物語
物語るハ物乃字をへいさも
ろへ〳〵もちろんむよ始へうら
寸国ち屋養の一名ともて
ろむちをさうもく部の字より
うく紬乃字ハ絹しくなと
も皆面をうの面へなり沢連ろハ
ともあまこ謝ろ山ものくらん
ち紐のあハ始へうす深
冨ろう数ろ数ろ禱くも国
二乃国と
物語の字
寝字ハ 新式ハ一種四句乃
ちんと数ろ数ろ数ろ数ろ数ろ
もへし物ひうら寝獨物
物覚物ろう物をき物
いり元物ご我人なるの紐
ろ元ハよのろ物ろ紐い連
ろよ面ちをきろ謝物
よハ七句ちし国服約いも七
句ちし人ち物ろ物ろよ蝶色
ろ物ろハ七句ちへ〳〵ろ
乃ぬろよ蝶のぬろのろ
面ちをろ乃ろ蝶色乃
物ろぬろも物ろハ物ろへ
うろす生数ちをへく二ち
色ろ物ろ物ろ物ろぬろ
物ろろ紐をうく物を
へろし寝乃字ハ乃字ハ乃
数乃物ろとぬろとれろ
紐ろう物乃字ハ乃字ハ
ぬろハ表よわろと連物

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]を[illegible]の家図
不審しくを伝聞よる日
を付させ[illegible]行う元彩式の
次第よ[illegible]恵乃をとう
あり[illegible]しく教家後もる日
より松を八[illegible]けをとう郷よ
み日を取くいきの乃うへもの
をもさ[illegible]ちれ[illegible]と乃こ
あわるたいもの文松まる
日ハ[illegible]紀付合しあまこを結と
とかみ日とうかよ松と付う
も男付よ[illegible]ハ同さよ
ゑうの差おわそうよ
制をう家図うけくるけ
まそ連絡も今いうこと
より見しあり九門弟と

松よる日を付くもうて
うしく次の日ハ松を[illegible]
るこる日ハ稲よ二句を
付う事ハ[illegible]ハ松よる
日ハ[illegible]を塩を堀よ[illegible]
今し添藤浣二月の日を
人ゆわ[illegible]去作日記
うも二月[illegible]日ハ[illegible]れも
書八正月[illegible]
るわ乃ハ唐乃久よ[illegible]
るこ受[illegible]ハ[illegible]
後付あう日乃句を引お
し不審しく今ハ付の
さ[illegible]のを[illegible]
を張し乃と作日を入う
を問え松よる日図さう

なりすいの葉は正月七日
涅槃は二月十五日桃は三
月三日菖蒲は五月五日瓜は
八月十五夜九月九日菊は
重陽なり紙も可付歟若
云曰なり同もしられ云
云曰なり種の種あく松とそわ
りふ附あしる日の仏生会
ふ葉神若は生てその
名をやめしわるや正月七日
仏方人もひよさはもわそ
きもふ葉といをしく
葉ともそわ云白のれもる分く
もそそかすす涅槃しる云
ふ月四日二月十五日乃ふす
おそそあ人やはふ人者の又

桃は若松乃ふ云乃ふ云はふく
ふあふす若三月乃若伝りもてそを
桃も松ふも若ふれを白松は
ふわく或ハ桃ふ或ハ桃ふ或ハ桃ふ
ふとふ白あふふ三月ふ
付ふも用ふふ若ふふ
とあやめは端午用ふふれ
も或ハ菖蒲若菖蒲酒あ
やめ乃ふふふふ若ふふ日
端午ふふふふふふふ付ふふ
ふふふふふふ月は八月十五
乗法ふふふふふふふふ
乃興児もふふふふふふ
も名月ふふふふふふふ
ふ白ふふ林乃ふふふふ

よ[illegible]乃うくへ[illegible]菓子
九月の[illegible]湯の[illegible]
へ白紙よりつくること[illegible]
[illegible]菓の[illegible]行菓乃
[illegible]ふへ間[illegible]
[illegible]お白れ菓
重湯乃[illegible]行ふ[illegible]の
菓子れ[illegible]
[illegible]よ行[illegible]
[illegible]も小松[illegible]日乃
[illegible]の白紙
[illegible]白人
[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

根字

岩根の下山ゝ山ゝ
[illegible]
[illegible]
[illegible]

花乃ちこれハ為るを法くの
所ゝ次四乃ゝ乃ゝふを拡
家をあらん[illegible]るれも拡
家ゝ[illegible]ふを分へゝ次るこ
ゝ乃ゝ乃ゝ[illegible]ハ二句を[illegible]
にたゝくハ二句しなる神一字を
あまこあまこあるゝ二句し
人ゝ[illegible]くハ[illegible]字おゝあゝ
加対句ゝ[illegible]ゝ[illegible]字の字
瀬ゝ一[illegible]ゝ句ゝ[illegible]句
を[illegible]れも[illegible]ゝ[illegible]人の
ゝのゝ昂ゝ[illegible]の数ゝ[illegible]も
対くもゝ[illegible]ゝ次りと
ゝゝ日ゝ乃[illegible]字
るれゝも同字ゝ[illegible]の法
ゝくゝ[illegible]ゝ[illegible]

成ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]ゝ[illegible]

不論源氏目ハ
源氏ハ碁目ハ
碁ハ目あわせ
すむ目のうち
めと形ふうさ
ふうめとあり
木のあ藤のめ
めるとの物ち
めふきうちう
さうふこ海ち
うちる宗四い
きしうへわく
なるかよるう
碁へうすとわ
形れ宗ちりめ
とりふとさい

碁盤目ハ碁ハ碁目ハ碁ハ碁目
碁ハ碁目ハ碁ハ碁目ハ碁ハ碁
碁目ハ碁ハ碁目ハ碁ハ碁目ハ

よもあらじ　二句字余
なれて三句　字余
同字余　吟
よもろひゆん　新古今
はよ　玄日
よ人字余　殺よ
よよ　ほ
せられて　道ゆ
ゆ　ぬ
もに　ぬ
ゆ　ぬ
ゆ　ぬ
ゆ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

洞と〳〵　連よ七句洞よは
句[illegible]

滝よ　句[illegible]不[illegible]
[illegible]

泣よ　句[illegible]
生類乃句[illegible]二句
文字[illegible]
句[illegible]
[illegible]
一[illegible]

なよ　句[illegible]二句[illegible]
他付句[illegible]
乃[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

高乃[illegible]
[illegible]
同[illegible]
七句[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]
[illegible]

あ毋わこ酒ちうさてる寶鑑
し新式よりへくぬ義なれし
信用をへうら涙をくにうち
殺メうねをとをのちなをあ
ををあへ十二句をうこうとく
出とくく歌とくくこ人生数うこ
つうくくもうくくと殺のと二句を
乃物を二句さわ二句去の物
い三句をへさしくをるくと殺しく
のくうめいをうをくへさうをし
さうおくくうく釜あう
四季語の声とうふうんあうく
をを宗めくぬ物るれいをの
鳴しを亀をうをを物まうれ
を白い麺へ今りをへるハ殺メ
とうくいをさまをてをうう絲

くもんり殺くくをうるーこを
乃味のうをれるくいの
なを殺者うあよをくくをく
つう句をよをくくの月をー
作ま方化何句るとう紙の
紡うを殺ーもをんあくれと
つうをの歌ひ作きうきさう
なうぬをんなわされをな
くをいつをよい間をことと
あをよをあ毋わ巨麺をう
をくへうく瀧殺ーあく
をを取く捨句をくをうをし
ちくくをうををくし
歌を赤ひをくへうくへ種物
句をを新式同あ俳ひか

めくい塙あるものとなり
さのなりけきのなりけな
のなりくるのなりこの植物
なりけるなりけるなりしく
ひくなりくるの植物なりくん
なりなり　急よりて花なりとよ
なりなり　鄙よりの強みくもの
うへすても今一句なりくいと
三句の植なりの次なりの沙なり
わをうへくくなりしなりこ
へ余なりくもなりへなりへ
なりなりくもの二句塙句なり
なりなり一急なり一言なりおよ
名　なり急鄙よりの数なりよ濃なり今
一なりのなりなりしなりわをなりふ
なりなりくなりの書なりの

まくなりなりなりのの
なりなりなりなりの間なり
なり濃なりなりなりなりなり
間なりなりのなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなりなり
なりなりなりなりなりなりなり
なりなりなり

きこえたるもあり
くもとく聞きもとくこそ
いのくもんゆのを称とも
二句をこそはよるはあはの乃字を
わかるる聞なくいと墓と云
計ともかけとも云乃字をとく
なきこゑわいたりこゑ
二句をへ来の義こと生新式
ヲて遍歩紙遍乃字をよ
へくるる聞をりくるの下に付
句遍はく歩紙不名遍紙
なきまこと今ゆ改句をしす
ひとりわしうめとりなへさし
言はこ句をの新あらず
わやうわかりつ

るあるもあるこ
たるとるこいへふら
とるわをもあら乃波ま
いひをあるとをこ
をこ二句
言ふたるりをたるこ
いをるあ聞
家待くもとかつくと
連よ遍歩書細よ紙乃を
あるとは紙をは字の字乃
をわるとのへを特合ハ一も
をくるたるてを雅乃るあ字
よ紙をれくを古人をを家
ふあくの句をにきをの紙
紙ヲ作こをんれたれ
るる

言ふ句ふ

句ふ

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ある人の句

波乃花 ある人より下総の極
相よりの書状に波乃花と書
新式紫波乃花と書乃花
花よりの次紅波より為
なのある句絵をれと書
梅花と波乃花と波乃雪ある
波梅ある人あるより絵と新式
うたにて
雅波 郡のあり紫波郡波
まくわもあるとと
もしある人より郡波
ある人をあるの人
あり次雅波人ある人より
と雅波はあるより
雅波はあるの波乃花
ものうちにはあるに
ある雅波はあるの
ある人より郡をきうつ
ある人より郡をきうつ
ある人の雅波乃
ものうちにはあるに

行字は第字　付句嫌之外
延不苦事

夏と夜

夜月　春の月と同おなじ月
あれ物のとのひくへ高欄
上字のあわのひくへもそこ
夜乃月とたとへ雲をたと
ゆるへ可あるへき夜の
三日月夜月あわれ物そ
て夜月とかいふ歌源
なる物やまとあり同文部元
物所もるるとき氏物へあり

句をもしらやうの句体二句
みるこの句と称のよいひくこと
ひ二の間し

夜桜と云句

こゝろ桜をよへらしの
清二条一名和ものの白
あり祢 中祢 祢同名一枝
めらの乃祢たらふも
天一祢乃ひ名すも祢四の間し
高祢し祢紙こてらへの所
乃波祢も

波乃雪 秋し波祢し波ん
雪下ハ雑し

波祢 あるこてもこの
句よりもの
くれと大こと祢
ものし

波 三句をもしあ迎し尾花
乃波 萩波ふあ迎て
めらすとといへとも波乃字
このハ字をもし

波 春ふ
梅の字ふて二句去
し祢すし妹ハ双妹とりけし
二句をもこれも殺よそ
ものんしあらこあらし付句
叶婦人貴し見沢見沢句こ
くの人ふハ沢半の沢乃字
こるこ本こるの所沢乃字

なを出る二句は嫌なし
流（ながれ）連は二句嫌よハ三句流
あと続は続も三句同じ
なれと書き流人流罪流離
ひかこと〳〵なれと和漢
よ續句なれとも三句は門跡
殿〳〵左遷（せん）乃ち
巡りもあり〳〵すれの流
るなれとハ水を巡る義なれ
乃一流なれとも乃ち
なれと句は色おい七句云ふ
水を巡るハ〳〵すれ
なこそ乃ち笑（せき）山数〳〵
なてまこと毎〳〵一夫なれ
一嫌よハ三句なれ

なれとも乃ち
色あこなれとこ〳〵ふ
なくれあるを
乃なるハ三句さ
中ようの二句は
世乃ふ
ぬとの〳〵世なる
とのハ世中と
あるすんなる
中は大内と二句
裏との〳〵同し中
不若うとふの
なれ
中（あり）
中なるなく

[illegible]今一句まとり
蝶々とあるもふぶ中
立乃門に一八漆句〳〵ことく
八不出可出とあ
蝶 人倫中の字立杜字に
二句去し蝶乃一字あ
ゆへ[illegible]わ組ハと世の中家中
[illegible]この立乃句の中[illegible]
蝶と連[illegible]わを渡へし渉よ
い面をこ[illegible]
[illegible]
[illegible]ハ蝶へ[illegible]ハ二句蝶へし
[illegible]ハ蝶へ[illegible]有の蝶の字
[illegible]二句去し連懐[illegible]
[illegible]
[illegible]乃字去の字よ

一切[illegible]
と数[illegible]
[illegible]
[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]

朽山白鮮